

令和7年度 公益財団法人山形市文化振興事業団事業計画

1 山寺芭蕉記念館

(1)展示事業

①特別展「**山**長谷川コレクション展 ー名品に見る日本の美ー」

(10月3日～11月17日)

豪商**山**長谷川家の蒐集した、多岐に渡る美術資料である**山**長谷川コレクションを公開することにより、日本の美術・工芸を紹介します。長谷川家から新たに借用した資料も含めて構成し、充実した内容とする。

②企画展「芭蕉の周辺と蕉門 ー芭蕉と江戸俳壇ー」

(4月11日～6月16日)

芭蕉の先達の俳人や弟子などの作品を公開し、芭蕉や蕉門が同時代や後世に与えた影響を紹介する。

③企画展「収蔵名品展」(6月20日～7月14日)

収蔵品の中から名品を展示する。**山**長谷川コレクションや^{えばら}頼原退蔵・^{つとむ}尾形 仿 コレクションなど芭蕉関連以外の名品も公開する。

④企画展「妖怪博覧会」(7月18日～9月2日)

妖怪をテーマとして、江戸時代から現代までの歴史資料や作品を展示し、その美術性や文学との関わり、及び歴史的背景を紹介する。最上義光歴史館と共同開催で展示する。

⑤企画展「人のかたちをつくる ー造形作品に見る美術ー」

(9月6日～9月29日)

芭蕉や千利休などの彫刻像をはじめ、一刀彫の雛人形、陶像など収蔵する彫像を一堂に展示し、彫刻表現の魅力を紹介する。

⑥企画展「芭蕉と江戸時代の俳人たち」(11月21日～2月16日)

松尾芭蕉とその門人たちの作品を紹介することにより、江戸時代の俳人たちの活動や互いの関係性を知るための機会とする。

⑦企画展「おひなさま展 ―山形に伝わる〈桃の節句〉の彩り―」

(2月20日～4月6日)

江戸時代の雛人形を中心に展示して桃の節句の歴史を紹介するとともに、雛人形に用いられた紅染めにも注目した展示を行い、日本の伝統文化の中に見ることのできる美や人々の思いに触れる機会とする。

(2)普及啓発事業

①第68回全国俳句山寺大会(7月13日)

俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で、芭蕉が訪れた時期に句会を開催する。

②第17回山寺芭蕉記念館英語俳句大会(7月)

英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化に寄与することを目的とする。

③第56回芭蕉忌俳句大会(10月26日)

俳句の普及と振興をはかるため、山形県俳人協会と共催し、山寺の地で芭蕉を偲び句会を開催する。

④第32回山寺芭蕉記念館文化セミナー(9月～10月頃)

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座を開設し、市民文化の向上をはかるとともに新たな視点を提示して文化の魅力を紹介する。複数回連続講座。

⑤奥の細道マイスター養成講座(秋頃)

当館ボランティアガイドを育成する講座を「奥の細道マイスターの会」と連携して開催する。ボランティアガイドを育成するための講座を開催し、職員と協力して展示説明の充実をはかるとともに、インバウンドに向けた対応も行う。

⑥芭蕉を偲んで投句しよう 一般の部・小中学生の部(通年)

俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内や立石寺境内等に投句箱を設置し、山寺観光協会と協力して投句選を行う。

⑦市民茶会

抹茶または煎茶の呈茶を行ない、茶道作法など、茶道文化の啓蒙普及をはかる。

⑧茶房 芭蕉堂（通年、但し市民茶会開催日を除く）

抹茶の呈茶を行ない、茶道文化に親しむ一助とする。

⑨山寺感謝の茶会（11月23日）

山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いていることへの感謝の意を表して呈茶を行い、茶の湯に親しむ機会とする。

⑩ICTを活用した情報発信

インターネットを媒体として、ホームページやSNS（フェイスブック・インスタグラム）を活用して、広報活動や松尾芭蕉・山寺に関する情報を積極的に発信する。また、インバウンドの推進による外国人旅行者の増加に対応するため、収蔵品の説明の多言語化やフリーWi-Fiによる利便性の高い情報環境を提供し、わかりやすい情報発信に取り組む。

⑪『山寺芭蕉記念館だより』〔年1回〕

事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の提供を行ない、山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てる。

(3) 調査研究事業

①収蔵資料台帳デジタルアーカイブ化事業

当館所蔵の収蔵資料のデジタルアーカイブに向けた作業を継続して行い、情報の発信に役立てる。

2 最上義光歴史館

(1) 展示事業

①企画展

1)「妖怪博覧会」(7月2日～10月13日)

妖怪をテーマとして、江戸時代から現代までの歴史資料や作品を展示して、その美術性や文学との関わり、及び歴史的背景を紹介する。山寺芭蕉記念館と共同開催で展示する。

2)「シン・市民の宝モノ 2026」展 (1月15日～3月29日)

山形市民を対象に、秘蔵する「宝モノ」を募集して、歴史館で選考して展示し、広く一般に公開する。閑散期に参加型の展覧会を開催することで、施設活動に対する山形市民の関心を高め親しめるものとする。

※継続企画

②常設展

最上義光を主とした最上家関係資料と山形城関係資料、山形に関わる文化財などを展示紹介しながら、下記のテーマ展示を行う。

1)展示1「鐵[kurogane]の美 2025 ～武士と日本刀～」

(4月3日～6月29日)

武器であり美術工芸品でもある日本刀の魅力を紹介する。収蔵刀剣(寄託資料含む)から、武士との係りがわかる刀剣を選定して展示し、エピソードを交えながら紹介する。

2)展示2「(仮称) 収蔵名品展」(10月16日～1月12日)

収蔵資料から最上家関係資料や山形ゆかりの文化財の名品を展示紹介する。

(2) 普及啓発事業

① 歴史講座

1) こども講座

小学生を対象に最上義光を学ぶ機会をつくることによって、郷土史に対する関心と理解を深め、愛郷心の育成を図る。

② ボランティアに係わる事業

最上義光の啓発のため、来館者への案内や説明などのサービス提供を担うボランティアによる歴史館のサポーターで組織する市民団体「義光会」を

支援する。

1)「義光塾」〔年3回〕

最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、来館者に対して幅広い知識で説明が可能となるようにスキルアップを図る。

2)「現地研修会」〔年1回〕

最上家や郷土の歴史に関する史跡等について、現地に赴き視察研修することによって、ボランティアの郷土史と文化財に対する理解を深め、来館者に対してより質の高い説明ができるようにスキルアップを図る。

3)地域連携・文化観光への協力

義光会と連携し、山形市で実施するイベントへの参加協力を行う。

(霞城観桜会、山形まるごとマラソン、街なか賑わいフェスティバル等)

③ICTに係わる企画と情報管理

ホームページを活用して様々な情報を発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開する。展示事業とリンクさせて、映像をはじめとする様々な情報をICTに係わる媒体を介して提供し、最上家や郷土の歴史、山形の文化遺産等の啓発も行う。また、インバウンドへの対応や文化観光の推進のため、案内説明の多言語化やフリーWi-Fiによる利便性の高い情報環境を提供する。その他、山形城御城印と御城印帳の販売も引き続き取扱い、最上義光の情報発信を行う。

④『歴史館だより』〔年1回〕

歴史館の事業報告や、山形の歴史や最上家に関する研究や考察などの最新情報を年刊紙面にて広く提供する。ICT事業にリンクさせ、ホームページからのダウンロードを可能とする。

(3) 調査研究事業

① 最上家関係資料・史跡調査〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究を進め、写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備を行う。

② 収蔵資料台帳デジタルアーカイブ化事業

当館所蔵の収蔵資料の台帳整備とデジタルアーカイブに向けた電子化作業を行い、資料の有効保存と情報の発信を目指す。